

i. 健康・地域医療分科会

健康・地域医療分科会提言

「健康・地域医療・福祉」のあるべき姿

市民一人ひとりが、日頃から健康に関心を持ち、心身ともに生き生きとした日々の生活が送れ、須坂病院を中心とした地域医療ネットワークにより、健康管理のサポートが行き届いているまち

また、身体が不自由になっても、高齢になっても、遠慮なく「助けて」の声が出せ、常に地域とのつながりが感じられるような、助け合いのネットワークが根付いて、「一人ぼっちじゃない」という安心感が得られるまち

さらに、困った人がいれば、当たり前のように手が差し伸べられ、ボランティア活動が盛んで、人情の厚い、ふれあいのまち

「健康・地域医療・福祉」の柱・キーワード

- ◇ 保健・健康・地域医療
- ◇ 高齢者福祉
- ◇ 障がい者福祉の推進
- ◇ 生活困窮者の支援
- ◇ 福祉のまちづくり

1 「保健・健康・地域医療」に対する提言

(1) あるべき姿

市民が自ら健康づくりに取り組み、必要な医療を安心して受けられるまち

(2) 現状

良い点

【保健・健康づくり】

- ・ ウオーキングする人が増えてきている。
- ・ 健康づくりに理解のある企業が多い。
- ・ 水がおいしい。

【保健補導員等】

- ・ 保健補導員制度が整っていることで、日常的に市民の会話の中に、健康維持・食生活のことが話題になっている。
- ・ 保健補導員制度の健康づくりが浸透
- ・ 食改の活動がすばらしい。
- ・ 健康増進事業、保健師がよくやっていると思う。
- ・ 介護予防事業 補導員さんよくやっている。

悪い点

【保健・健康づくり】

- ・ 人間ドックの受診補助が低い。
- ・ 健診案内がわかりづらい。
- ・ 乳児健診が午後のため、子供が寝てしまう。

【保健補導員等】

- ・ 保健補導員も疲弊している。

【地域医療(須坂病院・救急医療)】

- ・ 婦人科はあっても産科がない。
- ・ 産婦人科の医師が来たらそれで解決なのか。
- ・ 須坂病院だけにお産を頼らざるを得ない。安心して産めない。
- ・ 救急医療、今のままだとつぶれてしまう。充実してほしい。
- ・ 休日・救急医療(須坂病院)医師少なく待たされる。
- ・ 高齢者の診察に不便。駐車場も待合室も車椅子では狭い。

【医療制度】

- ・ 国保税・介護保険料が高い。

課題・問題

【保健・健康づくり】

- ・ 若い方は健診を受けているのか。
- ・ 特定健診、社会保険の扶養の方が受けやすいようになればよい。
- ・ 歯の検診があればありがたい。(8020 運動)

【地域医療(須坂病院・救急医療)】

- ・ 須坂病院の医師を今より増員
- ・ 里帰り出産も安心してできるような産科医療

- ・ 須坂病院は元国立上山田病院に学んでほしい。
- ・ 須坂病院独法化について3市町村のコンセンサスはあるのか。
- ・ 救急車を使った時、救急以外の場合は費用負担をしていただく。
- ・ 市議員さんに現場を知ってもらうために、年20日位、須坂病院やひだまりに行ってもらいたい。

(3) 実現に向けた取り組みやアイデア

市民の取り組み

【健康に過ごせるまち】

- ・ 乾布まさつでふれあうまちづくり
- ・ 市民が相互に健康づくり、生活を応援し、人をつなげる健康づくりを進める。

行政の取り組み

【健康に過ごせるまち】

- ・ 健診終了カードを出し、その後の医療費など格安・免除などの良さを与える。
- ・ 健診の受診期間を通年化する。(医療機関)
- ・ 老人福祉センター、地域公民館に介護予防運動用のマシンを置く。
- ・ 健康づくり(自身でするもの)に連携してフィードバック出来るシステムづくり
- ・ 須坂市民全員が必ず1日30分は歩かなければいけない条例制定(強制予防医療)

【医療の充実】

- ・ 須坂病院を支え、緊急医療を充実し、北信の医療中核市になる。
- ・ 地域ごとに健康管理などするセンター設置(身近な場所)
- ・ 複雑な医療制度をなくすことで、負担感の軽減を図る。
- ・ 1%支援制度(千葉県市川市)を参考とし、市民団体の自主的な活動に対して、市民が支援したい団体を選び、個人市民税額の1%相当額をその市民活動に援助する。
- ・ 数年間、保険証未使用者にお祝いをさしあげる。
- ・ 医療に携わる人にも、医療を受ける人にも優しさと、思いやりで結ばれた地域医療を創る。

共創・協働の取り組み

【健康に過ごせるまち】

- ・ ゆっくり噛んで食べる市民的運動を起こす。
- ・ 食事も運動もゆっくりスローライフのまち 須坂
- ・ 健康づくりのため、毎日曜、須坂市のどこかでウォーキングが開催されている町(町ごと順番もよし)
- ・ 簡単にできる健康体操の普及(タオル体操など)

【医療の充実】

- ・ 予防に力を入れる。(入院・薬を減らす!)
- ・ 須坂病院を地域に根ざした佐久総合病院のようにしたい。

2 「高齢者福祉」に対する提言

(1) あるべき姿

高齢者が、ひとり暮らしになっても相談できる場所があり、住み慣れたところで、安心して暮らせるまち
高齢者の介護や認知症に理解のあるまち

(2) 現状

良い点

【高齢者への支援・地域の支え合い】

- ・ 高齢者の一人暮らしに対し、思いやりが感じられる。
- ・ 地域のつながり、住民の支え合いがある。
- ・ 民生委員さんが活躍している。
- ・ 老人福祉センターの有効活用
- ・ 子育て支援の充実。公私の保育園整備と共に高めあう取り組み

【高齢者への支援・ボランティア】

- ・ 高齢者の方の家の周りの雪かきを率先してやる人達がいる。

【高齢者への支援・食】

- ・ 高齢者への配食サービス
- ・ 味噌がうまい。

【介護サービス】

- ・ 介護サービスの充実はありがたい。

悪い点

【高齢者への支援・交通】

- ・ ほほえみバスを止めるのはどうか。
- ・ 通所介護サービスの送迎車の効率が悪い。
- ・ 国道に歩道がない。道が狭い。レンガ状になっているところにシルバーカーがつかかる。

【介護サービス】

- ・ 入所施設の不足
- ・ 介護従事者の不足
- ・ 介護保険の上限を超えた上乘せサービスがあってもよい。(特に認知症)

【高齢者への支援・地域の支え合い】

- ・ 老人会がつぶれたこと。(会長の引き受け者がいない)
- ・ 近くに商店がなく、町の中心に転居したいと悩む高齢者

課題・問題

【高齢者への支援・地域の支え合い】

- ・ 高齢者になっても安心して暮らせる社会
- ・ 行政と地域で一体となって行っていく姿勢が必要
- ・ 3世代同居の世帯の増加、支援
- ・ 老人会のしがらみが原因で入る人が減少(現状の悪い点)

【高齢者への支援・認知症】

- ・ 認知症になっても安心して地域で暮らせる社会
- ・ 認知症の方に発信機をつける。電話でなく、身体から離れないGPSはないのか。(腕輪など)
- 【高齢者への支援・ボランティア】
- ・ 定年退職者の人を有効活用したらどうか。
- ・ シルバー人材センターの委託内容(事務・介護(福祉派遣法との関係))
- ・ 介護保険で助けられない部分をボランティアで何とかできないか。
- 【高齢者への支援・食】
- ・ 高齢者世帯の食の確保
- 【高齢者への支援・交通】
- ・ 高齢者の交通手段
- ・ 安曇野市の公共交通システムを参考にしたらどうか。
- ・ 高齢者一人一人の行動パターンを把握して交通システムを考えてはどうか。
- 【介護サービス】
- ・ 介護調査員の温度差
- ・ 制度サービス外の地域の支え合いの不足をどうするか。ふれあいのカバーできる人数?老人会の減少傾向
- ・ 老後を子供だけに頼れない。
- ・ 国民年金だけでは介護サービスが心もとない。

(3) 実現に向けた取り組みやアイデア

市民の取り組み

- 【高齢者が安心できるまち】
- ・ 隣組組織の活性化(地域での見守り)
- ・ 町内会の行事などに、役員だけでなく育成会(子ども達)も積極的に参加する。

企業等の取り組み

- 【高齢者の暮らしとお金】
- ・ 高齢者のみの企業を立ち上げる。
- 【地域で暮らす高齢者】
- ・ 高齢者の人材活用

行政の取り組み

- 【高齢者の暮らしとお金】
- ・ 高齢者と同居する世帯を優遇するような制度
- 【高齢者が安心できるまち】
- ・ 須坂病院へ市役所の機能を一部使えるようにする。
- ・ ボランティアをした人にポイントをあげる。(市内の施設を使う時に使える)
- ・ 地域通貨(ポイント制)
- ・ バス停までの移動困難者の支援システムを作る。
- ・ 介護サービスをできるだけ使わなくて済むように、予防事業にも力を入

れ取り組む。

- ・ 高齢者の見守りシステムを充実させたい
- ・ 認知症サポーターの充実

共創・協働の取り組み

【地域で暮らす高齢者】

- ・ 高齢単身者が協力し合って食事等をつくり、楽しめる通所施設

【高齢者が安心できるまち】

- ・ バス停にベンチを作る。

3 「障がい者福祉の推進」に対する提言

(1) あるべき姿

障がいを持つ人も持たない人も、地域で当たり前のようにつながりを持ち、地域の一員として生き生きとした姿で暮らせるまち

地域住民の障がい者に対する理解が深く、地域での就学や就労が確保され、1人でも安心して暮らせるまち

(2) 現状

良い点

【サービス】

- ・ 障がい者の生活実態にあったサービス量が受けられている。
- ・ オムツ券やタクシー券は、大変助かります。

【施設・ハード】

- ・ 障がい者支援施設の整備が充実している。
- ・ 施設のサービス内容が改善されている。
- ・ 市営住宅に障がい者住宅があるのは良いこと。

悪い点

【サービス】

- ・ 障がい者福祉事業が少ない。
- ・ 買い物のための移動手段の支援がない。

【施設・ハード】

- ・ 障がい者に対し、道路が狭く悪すぎる。
- ・ 須坂の道は入ってこられないように作ってある。(2車線から1車線に狭くなる)
- ・ 福祉施設がバラバラ

【障がい者への理解・理念】

- ・ 障がいの程度が様々で、健常者と見分けが付かない人もいる。手帳の更新は行われているのか。
- ・ 難聴の人への配慮が地域に欠けている。
- ・ 障がい者に対して本当に考えている市民であるのか。

課題・問題

- ・ オムツ券やタクシー券が、年度切り替え時に1ヶ月空くのが困る。(4月に使えない)
- ・ 障がい者住宅を拡大してほしい。(ユニバーサルデザインで)
- ・ 障がい者にとって住みよい町に。そのための官民の協力を。
- ・ 緊急通報システムが必要な人は、65歳以上に限らないので、希望者に設置できないか。
- ・ 福祉会館を市直営の管理に。
- ・ 福祉に対する給付金が多すぎないか。
- ・ 福祉有償運送事業者に格差がある。
- ・ 歩道の整備

(3) 実現に向けた取り組みやアイデア

市民の取り組み

- ・ 人権・差別をなくす啓発の取り組み。啓発の機会をつくり、学習する。

企業等の取り組み

- ・ 障がい者の雇用の確保

各種団体の取り組み

- ・ 障がい者グループの充実

行政の取り組み

- ・ 障がい者が働いている企業に法人税等の優遇措置
- ・ 車イスで行き違いができるよう、歩道を広くする。
- ・ 施設職員の待遇改善を。
- ・ 福祉サービスには、受益者負担という考えは取り入れない。
- ・ 施設入所などの書式を簡単にしてほしい。
- ・ オムツ券、タクシー券が年度切り替え時の3月に、4月分までまとめて出す。

共創・協働の取り組み

- ・ 障がい者が就労できる場の充実・開拓。それに対する市の支援
- ・ 福祉施設が1カ所にまとまっており、足を踏み入れたら、そこでだいたい事足りるような環境づくり。
- ・ 無料市民バスが市内をくまなく運行し、市内での移動がいつでも自由にできる。
- ・ 障害者自立支援協議会のような活動の強化推進

4 「生活困窮者の支援」に対する提言

(1) あるべき姿

生活に困っている人が、気軽に相談でき、親身になって解決策を考えてくれ

るまち

地域住民がお互いに協力し合い、誰もが生活できるまち

(2) 現状

良い点

- ・ 【サービスの充実】
- ・ 生活保護世帯率が低い。
- ・ ホームレスがない。

悪い点

- ・ 【制度の適正さ】
- ・ 誰が生活困窮者かわからない。
- ・ 本当にお金に困っている人に在宅福祉サービスが行われているか。

課題・問題

- ・ 生活困窮者を見つけ出す方法を。(窓口を設けるなど)
- ・ 低所得であっても地域で生きられるには。
- ・ 失業者を減らすためにワークシェアリングを。
- ・ 窓口一本化で何でも相談できないか。

(3) 実現に向けた取り組みやアイデア

市民の取り組み

- ・ 生活困窮者にお米を配布する。(農業者から、遊休農地を利用して)

行政の取り組み

- ・ ケースワーカーの増員
- ・ 生活相談、訪問員制度の創設

5 「福祉のまちづくり」に対する提言

(1) あるべき姿

地域とボランティアグループがつながり合い、誰もが何らかのボランティア活動に気軽に参加しているまち

助け合いが当たり前のように行われ、感謝の言葉があふれ、思いやりに満ちたまち

(2) 現状

良い点

- ・ 種々のボランティア活動があり、活発に行われていて良い。
- ・ 地域の見守りが行われている。
- ・ 助け合い推進事業があるのが良い。(社協に)
- ・ 民生委員さんが熱心
- ・ 福祉のまちとして、須坂は先進地と思う。

課題・問題

- ・ 学校施設の有効利用

(3) 実現に向けた取り組みやアイデア

市民の取り組み

- ・ 須坂市独自の助け合いのシステム（お金をかけずに、現物支給も）
- ・ 女性のパワーを利用する。
- ・ 「助けて！」を自由に言えて、だれかれとなく手を差し伸べる。

各種団体の取り組み

- ・ 全公会堂のバリアフリー化
- ・ 民生委員と保健補導員の連動したシステム
- ・ 民生児童委員を女性にする。

行政の取り組み

- ・ 御用聞き中心の市役所業務
- ・ 市内全域、歩道のフラット化

共創・協働の取り組み

- ・ ボランティアをしたらとても良かったと思える様なポイント制
市の施設（版画美術館など）の無料使用券
自分が支援を受ける立場のときにサービスが使える・・・など
- ・ 助け合いの家（店）を制度で作り、困ったときの相談や手助けができるまちづくり
- ・ 助け合いポイント制度。地域通貨との連携
- ・ 市民1人必ず半年ボランティアに従事する制度
- ・ 安心して使える道路づくりへの協力
- ・ 交通弱者が安心して歩けるまちづくり

【健康・地域医療分科会の様子】

